

## 平成 20 年度事業報告書

### I 事業の状況

#### 1、写真に関する芸術・創作活動の奨励、人材の育成（決算 2,503,260 円）

写真に関する芸術・創作活動の奨励、人材の育成について本年度は以下のような事業を実施した。

##### (1) 写真教育

1) 小学生を対象とした「写真学習プログラム」を平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月にかけて実施。  
全国の小学校 52 校、指導者 36 名、参加児童数 1,727 名。（4 年間の合計 224 校 10,305 名）。  
富士フイルム(株)の協力で行った。

このプログラムに参加した児童の中から 281 名(21 校 281 枚)の作品を「“PHOTO IS” 10,000 人の写真展 2008」(主催：富士フイルム(株))で、「“PHOTO IS” 小学生の眼」として出展。

7 月 2～6 日、東京・ミッドタウンホールを皮切りに、福岡、広島、大阪、名古屋、仙台、札幌の会場で 9 月まで展示され、全国の約 11 万人が鑑賞した。

2) 第 2 回高校写真部顧問を対象とした「デジタル写真講座」を、全国高等学校文化連盟写真専門部との共催で実施した。

第 1 回目：8 月 4 日、愛知県立愛知商業高等学校。講師：熊切圭介、山口勝廣、補助：近藤貴夫、高村達。教師受講者 20 名。

第 2 回目：8 月 29 日、千葉県総合教育センター。講師：田沼武能、桑原史成、補助：内堀タケシ、加納恒彦、小宮山道隆。教師受講者 21 名。

(株)ニコンイメージングジャパンとエプソン販売(株)の協力で行った。

##### (2) 技術研究会

1) 「インクジェット・プリンターによるオリジナル作品のための印刷術」を 4 月 3 日、JCII 会議室で行った。講師：小島勉 ((株)トッパングラフィックコミュニケーションズ)、参加者 84 名。

2) 「DVD によるデジタルデータの保管方法とディスクの選び方」を 6 月 23 日、JCII 会議室で行った。講師：小林孝至(三菱化学メディア株式会社)、参加者 92 名。

3) 「とにかくわか～る！初級～中級講座 現像専用ソフトによるデータ加工処理」7 月 5 日、大阪・愛日会館で行った。協力：(株)市川ソフトラボラトリー、参加者 50 名。

4) 「インクジェットプリントに適した用紙とは ～画彩写真仕上げ Pro シリーズ、その特長について～」を 7 月 8 日、富士フイルム(株)東京ミッドタウン本社会議室で行った。

講師：木下傑(富士フイルム(株))、参加者 81 名。

5) 「新世代の現像ソフト キャプチャーワン徹底研究」を 9 月 4 日、大日本印刷(株)DNP 五反田ホールで行った。講師：小山秀一、川口和之氏 ((株)DNP フォトマーケティング)、参加者 162 名。

6) 「インクジェットプリントに適した用紙とは ～画彩写真仕上げ Pro シリーズ、その特長について～」を 11 月 7 日、富士フイルム(株)大阪ビル 2 階ホールで行った。講師：千頭望(富士フイルム(株))、参加者 32 名。

7) 「デジタル時代だからこそ楽しむモノクロプリント」を 12 月 3 日、JCII ビル会議室で行った。講師：茂手木秀行(写真家・(株)マガジンハウス勤務)、参加者 60 名。

8) JPS セミナー「今こそ知ろう！Photoshop CS 4 で正しいプリント」を平成 21 年 2 月 4 日、池袋サンシャインシティ文化会館で行った。講師：茂手木秀行(写真家・(株)マガジンハウス勤務)、参加者 116 名。

- 9) 「光ディスクへのデジタル写真データの安心保存とレーベル印刷の活用」を2月17日、JCII 会議室で行った。講師：小林貴 ((株)スタート・ラボ 企画統括部長)、参加者89名。
- 10) 「RAW データを高画質な印刷に仕上げるための現像～「キャプチャーワン4.6」セミナー」を2月26日、大阪・愛日会館イベントホールで行った。講師：川口和之、小山秀一((株)DNP フォトリソ)、下田貴之氏 (フューズワンジャパン) 参加者105名。

## 2、写真の歴史、表現に関する展覧会の開催 (決算24,497,038円)

写真の歴史、表現に関する展覧会の開催について本年度は以下のような事業を実施した。

### (1) 「2008JPS展」後援：文化庁

公募作品受付：1月10日(木)～23日(水)、作品審査 2月9日(土)、審査員：田沼武能(審査員長)、英伸三、三好和義、ハービー・山口、奥田明久(『アサヒカメラ』編集長)。

一般公募総数：2,090名6,973枚(内22歳以下115名340枚)

入賞入選者数244名405枚、22才以下奨励賞・優秀作品32名60枚。「ヤングアイ」参加校20校。会員テーマ シリーズ日本 第2回「日本の食」出展数107名172作品。

総展示数403名、657枚、総入場者数10,852名。

入場料(各展共通) 一般700円、学生400円、高校生以下無料。

- ・東京展 5月24日(土)～6月8日(日)、東京都写真美術館。入場者数4,507名。

後援：文化庁、共催：東京都写真美術館

表彰式・講演会・祝賀会：5月25日(日)

講演会：「電車を撮って60年」講師・広田尚敬。参加者約150名。

イベント：「入賞作品ガイドツアー」5月30日、6月1日、ガイド・島田聡、参加者32名。

「写真家を目指す人へのポイントセミナー&講評会」6月6日、講師・テラウチマサト、参加者30名。

「デジタルワンデイクイック」撮影会&講評会 6月7日、講師・熊切圭介、参加者25名。

- ・広島展 6月13日(金)～19日(木)、広島市アステールプラザ。入場者数1,348名。

後援：文化庁、広島県、広島市教育委員会、広島市、広島市教育委員会

イベント 表彰式・入選作品(広島・岡山)講評：6月14日(土)

講演会：「顔に映る社会」講師・田沼武能。参加者約120名。

- ・関西展 7月8日(火)～13日(日)京都市美術館。入場者数3,140名。

後援：文化庁、京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会

表彰式・講演会・祝賀会：7月13日(日)京都市国際交流会館。

公募審査講評：田沼武能、田中祥介。

講演会：「昭和の肖像」講師：齊藤康一。参加者約200名。

- ・名古屋展 7月15日(火)～21日(月) 愛知県美術館。入場者数1,857名。

後援：文化庁、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会

イベント：7月20日(日) 円頓寺界限撮影会と講評会、参加者19名。

### (2) 「2008新入会員展—私の仕事」

7月17日(木)～23日(水) アイテムフォトギャラリー「シリウス」出展者50名、

展示作品数100枚。入場者数470名。オープニングパーティー：7月17日、参加者135名。

## 3、写真に関する著作権の啓蒙・普及活動 (決算1,271,406円)

写真に関する著作権の啓蒙・普及活動について本年度は以下のような事業を実施した。

### (1) 研究会

- 1) 「スナップ写真のルールとマナー 撮る人、撮られる人、そしてあなたは…」を7月20日、愛知芸術文化センター12F アートスペースAで行った。

講師：雪丸真吾(弁護士)、木村一成、山口勝廣、参加者106名。

- 2) 「初めての肖像権と写真の著作権」を11月14日、学校法人専門学校東京ビジュアルアーツで

行った。

講師：古賀義章（講談社クーリエ・ジャポン編集長）、雪丸真吾（弁護士）、山本陽子、参加者 190 名。

- 3) 「ネット時代の著作権」を平成 21 年 2 月 19 日、JCII 会議室で行った。講師：吉田大輔（内閣審議官、前文化庁審議官）、参加者 103 名。小冊子『著作権講演録』にまとめ会員に配布した。
  - 4) セミナー「写真家のための flickr 講座 インターネットでの保管、管理、公開」を平成 21 年 3 月 25 日、JCII 会議室で行った。講師：塩澤一洋（成蹊大学法学部教授）、参加者 55 名。
  - 5) 「フォトコンテスト応募要項における著作権」について二次継続調査をした。
  - 6) 「保護期間の満了した写真著作権の復活」について他団体と協議した。
  - 7) 「デジタルカメラの Exif に著作者情報の掲載」について、日本写真著作権協会(JPCA)と合同でカメラ企業に要請した。(株)ニコンとキヤノン(株)の協力が実現した。
- (2) 「肖像権」を解説した JPS 編『スナップ写真のルールとマナー』（平成 19 年 8 月、朝日新聞出版発行）が 4 月に 2 刷、12 月に 3 刷となった。
- (3) 著作権よろず相談室を毎月第 3 水曜日に開催。相談数 15 件。

#### 4、写真に関する優れた技術開発、表現活動に対する顕彰（決算 4,525,183 円）

写真に関する優れた技術開発、表現活動に対する顕彰について本年度は以下のような事業を実施した。

- (1) 第 34 回「日本写真家協会賞」をセイコーエプソン株式会社・エプソン販売株式会社に贈呈した。贈呈式は 12 月 10 日、アルカディア市ヶ谷で行った。
- (2) 「2008JPS 展」入賞・入選者 244 名を 5 月 25 日、東京都写真美術館ホールで表彰した。
- (3) 新進写真家の発掘と活動を奨励するために、主としてドキュメンタリー分野で活躍している 30 歳までの写真家を対象とした第 4 回「名取洋之助写真賞」は、公募 7 月 1 日(火)～8 月 20 日(水)、応募者 56 名、57 作品。  
8 月 25 日、金子隆一、椎名誠、田沼武能の 3 氏によって選考を行い、名取賞に柳瀬元樹「ユーゴの残影」(モノクロ)を、奨励賞に中井菜央「こどものじかん」(モノクロ)を選び、授賞式を 12 月 10 日、アルカディア市ヶ谷で行った。
- (4) 第 4 回「名取洋之助写真賞受賞作品展」を東京、大阪で催した。  
平成 21 年 1 月 23 日(金)～29 日(木) 東京・富士フィルムフォトサロン、入場者 5,700 名。  
平成 21 年 2 月 27 日(金)～3 月 5 日(木) 大阪・富士フィルムフォトサロン、入場者 2,365 名。  
また、福島市写真美術館で 3 月 10 日(火)～20 日(金)に展示した。

#### 5、写真に関する図書、機関誌等の編集刊行（決算 20,343,700 円）

写真に関する図書、機関誌等の編集刊行について本年度は以下のような出版物を発行した。

- (1) 『日本写真家協会会報』を発行。年 3 回 (No. 138～140)
- (2) 『JPS ニュース』を発行。年 11 回 (No. 452～462、総会資料)
- (3) 『2008JPS 展作品集』を発行。(5 月)
- (4) 『会員名簿 2008～2009』増補版を発行。(会員証制作費含む) (6 月)

#### 6、写真に関する国際交流（決算 582,896 円）

写真に関する国際交流について本年度は以下のような事業を実施した。

- (1) 国際交流セミナー、研究会の開催
  - 1) 「海外の印画紙事情 “幻の印画紙” を追い求めて」を 4 月 21 日、JCII 会議室で行った。  
講師：市川泰憲（『写真工業』編集長）、豊川勝士（写真家）田村政実（田村写真代表）、平林達也（フォトグラファーズ・ラボラトリー代表）、参加者 43 名。
  - 2) 「海外取材の現状 極東から中東まで アジアプレスの活動報告」を 6 月 26 日、JCII 会議室

- で行った。講師：野中章弘（写真家、アジアプレス主宰）、参加者 23 名。
- 3) 「国境を超えた創作活動プログラム〈アーティスト・イン・レジデンス〉と『ミャンマー人写真家の目から見た日本』スライドトーク」を9月29日、JCII 会議室で行った。講師：帆足亜紀（アートコーディネーター）、チョー・チョー・ウィン（ミャンマー写真協会会員）、参加者 35 名。
  - 4) 「第2回 海外の印画紙事情 “幻の印画紙” を追い求めて」を平成 21 年1月15日、JCII 会議室で行った。講師：豊川勝士（写真家）、田村政実（田村写真主宰）、参加者 61 名。
  - 5) 中国深圳市「国際写真文化フォーラム」（CIPIP）5月15日～17日の催しに招聘され、松本徳彦専務理事が「日本の写真著作権についてと写真表現の歴史」について講演した。
  - 6) イスラエルの報道写真家ジブ・コーレン氏が自身の映画公開と写真展開催のため来日し、6月11日に交流会が、横浜「BankART1929」で行われ、熊切圭介副会長がコーレン氏と対談した。参加者 53 名。
  - 7) 表敬訪問：10月23日、ルビエル・ポンセ駐日エクアドル大使と同国のクリストバル・コラール（写真家）。

## 7、その他目的を達成するために必要な事業（決算 7,168,467 円）

その他目的を達成するために必要な事業について本年度は以下のような事業を実施した。

- (1) 第2回フォトフォーラム「一枚の写真が伝えるもの」を10月4日、有楽町・朝日ホールで開催（共催・朝日新聞出版）。11:00～協賛6社による機材技術展 13:00～パネルディスカッション。  
パネリスト：大石芳野、椎名誠、田沼武能、長倉洋海、司会・奥田明久（『アサヒカメラ』編集長）。  
協賛・エプソン販売(株)、オリンパスイメージング(株)、キヤノンマーケティングジャパン(株)、(株)ニコンイメージングジャパン、富士フイルムイメージング(株)、HOYA(株)PENTAX IS 事業部。  
参加者 468 名。
- (2) ホームページ、インターネットを利用したサービス業務を実施。
- (3) ネガカバー、ファイル、トートバッグなど写真整理用品の製作及び販売。
- (4) 相互祝賀会を12月10日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。参加者 315 名。

## 8、その他目的を達成するために必要な経費（決算 19,489,749 円）

## 9、文化庁委嘱事業「日本写真保存センター設立に関する調査研究」（決算 8,436,813 円）

文化庁委嘱事業「日本写真保存センター設立に関する調査研究」については、本年度は以下のような事業を実施した。

昨年度に引き続き、物故写真家の写真原板の保管状況調査を行った。さらに、土門拳記念館、入江泰吉奈良市写真美術館、田淵行男記念館、飯田市美術博物館（藤本四八）と東京都写真美術館（杉村恒）での収集、保存状況、デジタル化並びにデータベース化について調査した。

海外のアーカイブスについては、8月から9月にかけてイギリスの国立メディア博物館、国立戦争博物館、オランダのネーデルランド・フォトミュージアム、アメリカのジョージ・イーストマン・ハウス国際写真博物館、カナダ国立図書館公文書館の現地調査等を行った。

写真原板収集後の利活用の方法について検討し、インターネットを利用しての写真の保存（ストレージ機能）、公開、利用許諾などの方法についての調査も行った。

諮問会議3回、分科会8回。国内調査20件。